

# 日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 ICA小委員会

更新日 2011/12/1

(2009/05/01の形式)

## 国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 国際地図学協会

(欧文) International Cartographic Association

(略称) ICA

日本学術会議加入年(西暦) 1979 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) Executive Committee

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	Georg Gartner		Derek Clarke他6名	Laszlo Zentai
(国)	Austria		South Africa 他6カ国	Hungary

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

4年に1度の総会において、事前に立候補届を行った候補者の中から加盟国各一票の投票により会長、事務局長、各1名、副会長7名を選出する。執行部には以上9名のほかに前会長が加わる。

加入国・地域の数 83 ヶ国

主要加入国(10ヶ国程度を列举)

米、カナダ、英、仏、独、スウェーデン、オランダ、スペイン、スイス、中国、日本

国際学術団体のホームページURL

<http://icaci.org/>

国際学術団体の年間運営経費

240,000ユーロ

日本の分担予定額[事務局で記入]

168千円(2012年度)

## 国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
2011	第15回ICA総会/第25 回国際地図学会議	パリ/フランス	1500	21	無
2009	第14回ICA総会/第24 回国際地図学会議	サンチアゴ/チリ	700	7	無
2007	第13回ICA総会/第23 回国際地図学会議	ロシア/モスクワ	1280	14	無
2005	第22回国際地図学会 議/臨時総会	スペイン/アコルニャ	1625	11	無
2003	第12回ICA総会/第21 回国際地図学会議	南ア連邦/ダーバン	810	12	無

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2011	ICA役員会/各国代 表者会議	パリ/フランス	50	森田 喬 熊木洋太	2
2010	ICA役員会	パリ/フランス	10		
2009	ICA役員会/各国代 表者会議	サンチアゴ/チリ	53	森田 喬 熊木洋太	2
2009	ICA役員会	スイス/チューリッヒ	10		
2008	ICA役員会	チリ/サンチャゴ	10		

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

1. ICANews (2回/年)
2. Advances in Cartography and GIScience (隔年)
3. Proceedings of the International Cartographic Conference (隔年)
4. Cartographica (4回/年)
5. The Cartographic Journal (4回/年)
6. Cartography and GIScience (4回/年)

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

<p style="text-align: center;"><b>国際機関等の提唱で行った活動</b></p> <p>ICSU の Scientific Associate である。</p>
<p style="text-align: center;"><b>国際機関等への提言等</b></p> <p>姉妹機関である IAG(国際測地学協会)、FIG(国際測量者連盟)、ISPRS(国際写真測量リモートセンシング学会)、IHO(国際水路機関) に呼びかけて各々の総会には相互に参加し連絡協議会を開催している。</p>
<p style="text-align: center;"><b>国際事業等への参加・実施等</b></p> <p>ISCGM(地球地図国際運営委員会：日本提案)による地球地図の構築や、ISO/TC211によるGISの標準化に協力している。</p>
<p style="text-align: center;"><b>全世界的/地域的研究課題への取組み</b></p> <p>SDI(空間情報基盤)に関して、各国で構築された空間データの蓄積・交換が全世界的な課題となっており、各種コミッションやワーキンググループの活動を通じて今後の方向性を検討している。</p>
<p style="text-align: center;"><b>発展途上国への対応</b></p> <p>発展途上国の若い研究者がICC(国際地図学会議)に参加できるように、毎回審査を通じて15名程度の35歳以下の研究者や実務家に旅費と登録料を支給している。</p>

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

<p>地球環境の課題、また日常生活における安全・安心の改善など、空間情報の充実・共有化・即時性に対する必要性が高まっている。また、共通性と同時に固有の文化的コンテキストへの対応など、科学技術の社会化への要請も大きい。これらは姉妹機関である IAG、FIG、ISPRS、IHO とも課題を共有している。</p>
--

## 国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
ICA表彰委員会委員	森田 喬	2011	2015
ユビキタスマッピング委員会代表	有川正俊	2011	2015
ユビキタスマッピング委員会代表	森田 喬	2003	2011
副会長	森田 喬	1999	2003
Chair of National Committee for Cartography	森田 喬	1999	2011

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 ICA小委員会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

日本国際地図学会

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
日本国際地図学会	1000	<a href="http://www.jmc.or.jp/gakkai/">http://www.jmc.or.jp/gakkai/</a>
日本地理学会	3200	<a href="http://www.aig.or.jp">http://www.aig.or.jp</a>
地理情報システム学 会	1700	<a href="http://gisa-japan.org">http://gisa-japan.org</a>
人文地理学会	1400	<a href="http://wwwsoc.nii.ac.jp/hgeog.index-j.html">http://wwwsoc.nii.ac.jp/hgeog.index-j.html</a>
日本写真測量学会	1000	<a href="http://www.jsprs.jp/">http://www.jsprs.jp/</a>

## 学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名	ICA小委員会
所属分野別委員会	地球惑星科学委員会

### 分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
森田 喬(世話人)		熊木洋太(世話人)	

会員数	連携会員数	特任連携会員数
2	5	0

### 分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

①総会に出席する代表の推薦 ②役員および委員会・作業部会委員の候補者の推薦  
 ③総会に提出するナショナルレポートの作成 ④国際地図学会議で発表する論文の募集並びにICA事務局への連絡 ⑤国際地図学会議併催地図展に出品する地図類(子供の世界地図を含む)の募集と審査並びにICA事務局への連絡 ⑥総会の決定事項、その他の情報の関係分野への連絡

### 今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2011/1/17	第25回国際地図学会議(ICC)および第15回国際地図学協会(ICA)総会関係の重要な日程について/ICA関係ワークショップ参加報告
2010/3/15	第24回国際地図学会議参加報告、第15回ICA総会・第25回国際地図学会議(2011年7月3~8日、パリ)への対応について
2009/3/16	委員長、幹事の選出/ICA小委員会の運営について/ICC2009(第24回国際地図学会議)への対応について/「地図でひろがる学びの輪」原稿募集について
2006/12/11	委員長、幹事の選出/ICA小委員会の運営について/ICA総会・第23回ICC(2007年8月4~10日、モスクワ)への対応について

**日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)**

代表派遣のあった会議については「学術の動向」に寄稿し、同時に学術会議のホームページに概要が掲載される。ICAからの連絡については、必要に応じて日本国際地図学会のホームページおよび学会誌「地図」に掲載するとともにICAのホームページのURLを公開している。

**国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)**

日本国際地図学会がICAの設立発足に呼応して設立されているので、ICA小委員会で決まった事項の実作業は連携をとりながらそこで行われることになる。日本地球惑星科学連合や地理学連携機構などのアンブレラ機構とも連携しながら新たな展開を検討している。

**特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)**

分科会への昇格を検討中である。小委員会では旅費が出ないため地方のメンバーが入りにくいという課題は影響が大きい。

**分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)**

ICA小委員会としてICAへの国内委員会としての対応は十分できているが、19期までの研連が行ってきたような分野としての展開が名称がICA対応であるために行いにくくなっている。